

## (成人対象) 風しん抗体検査、風しん予防接種のお知らせ (任意)

妊娠早期に「風しん」に感染すると生まれてくるお子さんが「先天性風しん症候群」(CRS)に罹患する可能性が高いため、江東区では厚生労働省が予防接種を推奨する低い風しん抗体価で、これから妊娠を予定されている女性と同居者を対象に「風しん予防接種」を無料で実施しています。

### 1. 風しん抗体検査

#### (1) 対象者 (区民のみ)

- ① 妊娠を予定または希望する 19 歳から 49 歳までの女性
- ② 対象①の同居者 (ただし 19 歳以上)
- ③ 風しん抗体価が低い妊婦の同居者 (ただし 19 歳以上)

#### (2) 内容

協力医療機関に備え付けの風しん抗体検査の申込用紙を記入し、検査 (採血) を無料で実施。後日、医療機関より、検査結果書類が発行されます。

※過去に江東区の風しん抗体検査 (任意) または風しん予防接種 (任意) の費用助成を受けたことがある方は対象外となります。

### 2. 風しん・MR 予防接種

#### (1) 対象者 (区民のみ)

上記 1. の風しん抗体検査の対象の方のうち風しん抗体価の低い方

- ① 予防接種を推奨する低い風しん抗体価 (検査方法により標記が変わりますので、ご注意ください)  
・HI 法 16 倍以下                      ・EIA 法 8 未満

#### ② 抗体価の確認方法は以下のとおり

- ・医療機関における風しん抗体価検査で、抗体価が低い方 (抗体価を記載した検査結果書等が必要)
- ・出産時等における風しん抗体価検査で、抗体価が低い方 (抗体価を記載した検査結果書等が必要)

※過去に医療機関で実施した抗体検査費用、及び過去の証明部分の複写費用等は公費助成できません。

※過去に江東区の風しん予防接種 (任意) の費用助成を受けたことがある方は対象外となります。

#### (2) 内容

風しん抗体価を記載した検査結果書等を契約医療機関に持参し、備え付けの予防接種予診票を記入、医師の問診後、予防接種が実施されます。

接種するワクチンは風しん単抗原または MR (麻疹風しん混合) ワクチンのいずれかになります。

### 3. 費用負担

無料 (自己負担なし)

### 4. 実施場所

区内協力医療機関 (区のホームページでご確認頂くか、保健所までお問い合わせください)

### 5. 実施期間

令和 5 年 4 月 1 日 から 令和 6 年 3 月 31 日 まで

### 【女性への注意事項】

現在、妊娠している方、またはその可能性がある方は、風しん予防接種を受けられません。出産後または妊娠していないことが確認された後、適当な時期に接種を受けてください。なお、風しん予防接種後 2 か月間は、妊娠を避けることが必要です。

## 6. 疾患等について

### ◎ 風しんとは

風しんウイルスの飛沫感染によっておこる急性の発疹性感染症で、春先から初夏にかけて流行することが知られています。潜伏期間は 2～3 週間で、軽いカゼ症状で始まり、発疹、発熱、後頸部リンパ節腫脹等の主症状のほか、結膜充血も見られます。主症状は、3 日間程度で治るため「三日ばしか」とも呼ばれています。

従来、集団生活に入る 1～9 歳（1～4 歳児、小学校の低学年）頃に多く発生を見ていましたが、近年は日本の予防接種の定期接種対象となっていなかった 20～40 代の男性の発症が多くなっています。

風しんの症状は、小さな子どもの場合、それほど重篤にはなりにくいのですが、患者になった方で 2,000～5,000 人に 1 人ぐらいの割合で血小板減少性紫斑病や脳炎等の重篤な合併症を発症することがあるとされています。

大人になってからかかると一般に重症になりやすく、発熱や発疹の期間が子どもと比較して長く、関節痛がひどいことが多いとされ、場合によっては 1 週間以上、仕事を休まなければならない場合もあります。

### ◎ 先天性風しん症候群とは

風しんに対する免疫を持たない女性が、妊娠中（特に妊娠初期）に風しんに感染すると、胎児が白内障、先天性心疾患、難聴の他、精神運動発達遅滞等を主な症状とする先天性疾患にかかるおそれがあります。

これらの症状を持って生まれたお子さんは、妊娠中に胎内で風しんウイルスに感染したことが原因である可能性が高いと考えられます。このうち、白内障や心疾患は手術、難聴は人工内耳が開発され乳幼児にも応用されるようになりましたが、治療が難しい先天性疾患もあり、予防が重要です。妊娠中の風しん感染は、必ずしも先天性風しん症候群を意味するものではありませんが、十分に注意することが必要です。

## 7. 風しん予防接種について

風しん予防接種は、弱毒化した風しんウイルスを含む「生ワクチン」です。

そのため、副反応として、注射部位の腫れのほか、風しんに罹患した時と同じような発熱、発疹、関節痛、リンパ節腫脹等を認めることがあります。重大な副反応として、アナフィラキシー様症状、脳炎・脳症、血小板減少性紫斑病等が報告されていますが、非常に稀です。なお、成人に接種した場合、子どもと比較して関節痛を訴える頻度が高いとされています。

## 8. 予防接種が受けられない方

(1) 明らかに発熱のある方（一般的に体温が 37.5℃を越える場合）

(2) 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな方

(3) 現在、妊娠している方

風しん予防接種は生ワクチンのため妊娠中に接種すると、ワクチン由来のウイルスにより胎児へ胎内感染を引き起こすことがあるため、妊娠中は風しん予防接種を受けることが出来ません

(4) その他、予防接種を受けることが不適当な状態にあると医師に判断された方

## 9. 予防接種を受ける際に、かかりつけ医とよく相談しなくてはならない方

(1) 心臓血管系疾患、腎臓病、肝臓病、血液疾患等の基礎疾患を有する方

(2) 今までにけいれんを起こしたことのある方

(3) 以前に免疫不全の診断がなされている方、及び近親方に先天性免疫不全症の方がいる方

## 9. 予防接種を受けた後の注意事項

(1) 予防接種を受けた後 30 分間は、急な副反応が起こることがあります。医師（医療機関）とすぐに連絡を取れるようにしておきましょう。

(2) 副反応の多くは、接種後 24 時間以内に出現するため、特にこの間の体調に注意しましょう

(3) 入浴は差し支えありませんが、わざと注射した部位をこすことはやめましょう。

(4) 接種当日はいつもどおりの生活をしましょう。激しい運動や大量の飲酒は避けましょう。

江東区保健所保健予防課  
TEL 03 (3647) 5879  
FAX 03 (3647) 7068